



# 大田・生活者ネットワーク 区議会レポート

# きたざわ潤子

きたざわ・じゅんこ / エールおおた区議団

発行責任者：北澤潤子 〒144-0052 東京都大田区蒲田 4-42-3 イースタンコーポ蒲田 302  
TEL：03-6424-7561 FAX：03-6424-7562 E-mail：oota@seikatsusha.net  
大田・生活者ネットワークホームページhttp://oota.seikatsusha.me



大田・生活者ネットワーク  
きたざわ潤子の活動を紹介します。

<http://kitazawa.seikatsusha.me> 子どもたちの未来のために今、大切なこと

きたざわ潤子(きたざわ・じゅんこ)プロフィール ■高知県生まれ大田区池上2丁目在住 ■東洋英和女学院短期大学保育課卒業 ■日本女子大学通信教育課程家政学部児童学科卒業 ■幼稚園16年間勤務(めぐみ幼稚園、こひつじ幼稚園他) ■日本保育学会会員 ■2011年～大田区議会議員(現在3期目) ■子ども文教委員会、防災安全対策特別委員会

## 区議会第3回定例会・決算特別委員会の報告

6月に蒲田で起きた3歳児が放置されて亡くなった事例は大変衝撃的なものでした。子育てが難しい時代だと言われてはいますが、社会全体の「こと」として子どもとその家庭を育む環境をしっかりとつくらなくてはなりません。何が本当に必要なのか、制度の課題はどこにあるかなど、その内実を深く探っていく必要があります。

虐待をふせぐ 子育て家庭に「温かい見守り」を

虐待死が最も多いのが0歳、産後1年半までの産婦の死亡のトップは自殺だということからもこの時期の危うさがわかります。昼夜もない授乳による睡眠不足での疲労、育児不安、閉塞感、ホルモンバランスの崩れからくる精神的な不安定さ、泣き止まない赤ちゃんに自分をコントロールできなくなるなど、虐待リスクの高まる時期です。妊娠時からの温かいサポートが欠かせません。

### ●孤立化をふせぐ 顔の見える関係を

妊娠届けを出した際の妊婦面接は、行政とのファーストコンタクトです。

地区担当保健師との顔の見える関係作り、地域の民生児童委員、子ども食堂など地域の子育て支援団体の情報を知らせることを求めました。

### ●シングルマザーの相談窓口を

シングルマザーは仕事と育児との両立に精一杯で、忙しさゆえ孤立しがちです。ワンストップの相談窓口が必要です。

足立区では、専用の相談窓口で子育て支援、就労支援の他、親同士が横のつながりを持てるように、交流サロンを開催するほか、サービスが確実に届くように情報冊子「応援ブック」を制作しています。

行政には、親と子どものSOSを受けとめやすい環境作り、また地域や他機関とのネットワーク作りなどコーディネート力が求められています。



DV対策と性暴力対策強化を！(代表質問より)

配偶者暴力(以下DV)は、身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要など、相手を力づくで自分の意に従わせようとするものであり、いうまでもなく人権侵害です。問題は家庭内で起こるので、発見されにくく、エスカレートしやすいこと、子どもへの心理的影響も深刻なことです。

区へのDV相談は年々増加しています。2015年は828件だったものが、2019年には1323件にもなりました。しかし相談ができないでいる人も少なくないと考えられます。

DV根絶のために、未然防止、早期発見、被害者支援等、あらゆる対策に力を尽くす必要があります。様々な場面での早期発見や理解のためにも全職員のDV研修を求めました。

また魂の殺人と言われる性暴力は、心身に深刻な影響を与え、望まない妊娠、中絶などその後の人生に甚大な影響を与えます。

性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップセンターでの調査(内閣府2019年)によると面接による相談1600件のうち、被害者の年齢別では19歳以下が40.6%、中学生以下の被害者はそのうちの約2割でした。

若年層での被害の実態からは、性暴力への対策は待ったなしです。発達に応じた性教育、自分の身体を守ること、全ての中学校で、「デートDV」予防講座を行うことを要望しました。SOSを出しやすい相談体制も重要です。

エールおおた区議団は、2019年度大田区一般会計歳入歳出決算と国民健康保険事業特別会計決算の認定に反対しました。

国保会計は2018年12月末で滞納者世 ☞

帯が34,000世帯、34%と厳しい状況でしたが、2019年にまた保険料の改定があり、多くの世帯で負担増になりました。2019年10月には、増え続ける社会保障費負担のため消費税増税がありました。区民の保険料負担は軽減すべきです。

一般会計決算において主に問題があるとした事業は、羽田空港跡地における産業交流拠点についてです。新産業創造・発信拠点とする区施策活用スペースの入居企業はまだ確定せず、今後区の財政負担となるリスクを抱えています。

また公務員における非正規職員の増加や区の事業の委託化がいつそうすすみましたが、災害対応など住民福祉への影響が懸念されます。

住民福祉を第一に

## ポール de ウォーク 爽やかな風を感じて楽しく運動

「ポールdeウォーク・久が原八幡楽校」に参加しました。八幡神社に集合して、リーダーを中心に簡単なストレッチをしてから出発。この日は、千鳥いこい公園(久が原6-26-5)を経て島忠ホームセンター(千鳥・第2京浜国道沿い)までのコースでした。

2本のポールで地面を押しながら歩くことで肩甲骨がぐっと中央に寄せられて、姿勢がよくなり、「歩く」ことがこんなに爽快なのかと驚きました。

道々、久が原の住宅の庭に咲いている花を楽しみ、広く広がる空に目をやりました。いこい公園に到着して一休み、喉を潤したり、公園の植物をながめたり。

短時間でありながら、季節を感じ、地域の様子を知り、楽しい語らいも経験できるヘルスケア。そんな「ポールdeウォーク」の魅力を実感したひとときでした。



活動は月に2回、八幡神社に集合して地域を元気に歩きます